



# やまゆり

学校だより

令和6年2月5日  
81号  
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」  
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー  
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標 **社会に貢献しながら、自立する生徒の育成**

**授業参観・学年懇談会・教育講演会等へのご参加、ありがとうございました**

1月31日(水)に、授業参観、学年懇談会、教育講演会等がありました。保護者の皆様にはお忙しい中をご参加頂きまして、ありがとうございました。各学年ともに個人や集団として大きく成長できた1年間でした。生徒の努力と家庭教育、学校教育へのご理解とご協力に感謝いたします。

今回は、PTA生活部会の「いじめに関する教育講演会」も開催しました。保護者の方々と教職員で協力して、学校教育で「安心・安全」を構築するために大変役立つ講演会でした。

池谷生活部長さんや部員の方々、生徒指導主事の三浦先生が中心となって、企画・運営して下さいました。ご理解とご協力に、心より御礼申し上げます。

**高村先生の1・2年生の音楽科の合唱指導**



**天野先生の特別活動 卒業式に向けて**



## 学習指導へのご感想

○3年生の学級会活動では、卒業式に向けて3年生の気持ちを表現するテーマについて話し合いが行われました。一人一人の思いを表現し、3年生としての思いを一つにしながら感謝の気持ちを表す話し合いの様子を参観することができて良かった。という声を頂きました。

※これ以外にも、「生徒の思いや成長を感じる学習指導に感謝」します等の声を頂きました。

## 1・2年生の音楽科の指導についても、たくさんの声を頂きました。

- いつも良い授業をしていただき、ありがとうございます。子どもたちの合唱を聞いて泣きそうになってしまいました。3年生に気持ちを伝えようという思いが伝わってきました。
- 子どもたちが、練習段階なのにしっかり声が出て、上手に歌っているのに驚きました。道志中は、少人数でも合唱のクオリティーが高いと思っていましたが、近年はさらに人数が減っているにも関わらず、素晴らしい歌声の授業でした。
- パートごと、全体の音合わせも一つ一つグループで確認しながら話し合ったり、振り返りも生徒主体で取り組んでいました。これらの活動が良い表現につながっていると思いました。きめ細かい指導で、生徒が自ら「気づき、考え、実行」という授業がしっかりできていたと思います。本番はとても素晴らしい発表になると思いました。
- 今日の授業参観での子どもたちの姿に、1年という経過と成果を感じました。日々の生活で個人としてもクラスとしても子どもたちも先生方のご指導の下、努力していることが伝わりました。当日の三贈会が、大成功で3年生に思いが届くことを願っています。
- 3年生に思いが届く合唱で感動しました。本番も頑張っていて感謝を伝えて欲しいと思います。
- 1・2年生合同での活動で、合唱らしい合唱を見られて良かったです。話し合いの姿も良く、当日が楽しみです。
- 生徒が自ら目標を立てて、それに向けて練習する姿を見ることができて良かったです。歌声が素敵で感動しました。当日が楽しみです。
- 全体で合唱する事によってとても素晴らしい合唱でした。鳥肌が立ちました。三贈会が楽しみです。
- 音楽の授業を始めて見る事ができて良かったです。一人一人が良く声を出していて、一生懸命取り組む姿に感動しました。1・2年生で一緒に活動する事によって、お互いに刺激を受ける事ができて良かったのではないかと思います。
- レベルの高い授業を見ることができました。生徒の意見を聞きながら授業を進めている点が、すごいと思いました。生徒には、本番も頑張っていて欲しいです。
- 恥かしくて歌うのを嫌がっている生徒もいると思いましたが、みな楽しそうで驚きました。
- 生徒が自分たちで課題をもち、目標を明確にすることによって「すべきこと」が良く理解できていました。とても意欲的に活動していることが分かり、学年を超えて声をかけ合っている様子をほほえましく思いました。
- 全部聞きたかったと思いましたが、本番を楽しみにしたいと思います。各パートがきちんと向き合い、誰ひとり手を抜くことなく取り組む姿に感心しました。一人一人のノート(学習キャリアパスポート)に細かく記入されており、コメントも多く驚きました。楽しい三贈会になるように祈っています。
- 楽しそうに歌っていたので、こちらまで楽しくなりました。

## 2名の指導主事も「授業を目的に」来校しました。



- 合唱や表現活動は、自己開示できる安心・安全が重要です。
- 上級生・下級生での自己開示は難しいです。  
↓
- 学習の個別最適化・協働化、主体性の向上が本校の研究内容です。

学校教育重点目標 「連携」・「居心地良く、やる気のある学級・学校」

## PTA生活部で「いじめ予防」に関する教育講演会を開催しました

学年懇談会の後に、音楽室でPTA生活部主催による「いじめ予防に関する教育講演会」を行いました。講師は、山梨県教育庁富士東部・教育事務所指導主事の「三浦淳」先生です。

生活部長の池谷さん、部員の皆様をはじめ、ご参加いただいた保護者の皆様には、ご協力を頂き、ありがとうございました。

### 「いじめの防止活動へのご理解とご協力に感謝」

本校の教育の最優先は、命・人権に関する「いじめ予防」や「不登校防止」としています。私は道志中の出身です。私が中学生の時代は、全国的に中学校が荒れていて暴力やいじめ等が大きな社会問題でした。また、過去の本校の2回の勤務時にも「暴力」や「いじめ」、「不登校」等の問題があり大きな課題でした。校長として最後に母校に赴任し、生徒一人一人の安心・安全は、学校教育で最も重要視されるべき課題と考え対策をしてきました。しかし、これらの課題は教職員のみでの努力では実現できない問題です。

赴任した3年前、本校でいじめの研修会を保護者向けに2回開催しました。資料をつくり、勤務時間外の夕方に設定して努力しました。しかし、保護所の皆さんも忙しく、2名～3名の参加でした。PTA役員さんから、「大事なことなのでPTA活動にしたらどうか」という助言も頂き、他の役員さんにも了承を頂き、昨年度は「学園祭で保護者からのいじめに関する啓発」をしていただきました。生徒が本気で活動する学園祭は、ストレスや能力差のために「いじめ」が発生しやすいのでいじめを防止し、感動の学園祭を創造するのにとても有効でした。

このPTA活動が、実は「本年度のPTAの文部科学大臣賞の受賞」に大きく貢献しました。本校が選定されたのは、「いじめの問題を、生徒・教職員・保護者で協働して取り組む本県で唯一のPTA活動は、先進的であり全国のPTA活動の見本や手本になる」という理由からでした。

授業参観でご覧いただいた生徒の主体性の高さは、いじめの予防を徹底し、「嫌なことがなく・孤立していない・本気で取り組むことによる自己承認と他者承認」の成果だと考えています。

### 教育講演会にご参加いただいた保護者の方々のご意見

- ①文部科学省の調査によると、小4から中3までの6年間で91.4%の児童・生徒は「何らかのいじめ被害を受けている」と報告されました。このことは、学校生活で子供が「嫌だと感じることもある」ということです。どのように友達と接したら良いかを考えさせられます。
- ②学校には、子ども達が活発に発言・行動できる安心・安全な環境づくりを今後も引き続きお願い



いしたいと思います。

- ③いじめについて道志中が真剣に取り組んでいることは理解していました。しかし、指導主事さんという第三者の説明を聞き、改めて中学校の取り組みが理解できました。いじめが起きない雰囲気普段から創れたら良いと思いました。
- ④子供が、被害者にも加害者にもなる事が分かった。道志中の取り組みや対応に感謝したい。
- ⑤いじめは学校や学級の規模に関係なく起きていること。また、道志のような小規模校である方が予防や対応が難しいケースが多いと聞き、「やはり、そうだろうな」と改めて思いました。他人事ではなく、自分のこととして対応する事の大切さを感じました。
- ⑥数字で見ると、いじめの認知件数の多さに驚きました。いじめ防止対策推進法等について考える機会が無かったので、良い学びになりました。
- ⑦いじめ問題は、本当に大変なことだと思いました。本日の指導主事さんの説明から、道志中の先生方のいじめに関する意識の高さを感じました。いじめの定義である、相手が嫌だと言えはいじめが成立する怖さも感じました。
- ⑧いじめの定義の変遷を学び、現在の定義も理解できました。いじめの認知をもつ生徒をどのように救うか大きな課題だと思いました。いじめは、現在の定義により、誰もが被害者にも加害者にもなることが分かった。深刻になる前に、適切な指導が必要だと思えます。
- ⑨いじめの認知件数の多さに驚きました。被害者にも加害者にもならないように気を付けて言動することが必要だと思えます。
- ⑩「いじめを認知しても、相談できる人があまりいない」ことに驚きました、友人や保護者、先生等に相談して欲しいと思えます。
- ⑪「こんなことでもいじめになるのか」と思い、正直言って驚くことが多かったです。子供に話して伝えようと思えます。
- ⑫いじめの予防、適切な対応のために、コミュニケーション能力、問題解決能力等を被害者や加害者、保護者も身につけていかなければいけない。
- ⑬「自助」「共助」「公助」も、実行の知識はまだ浅く生徒・教員・保護者・自治体等も学習が必要だと思えます。
- ⑭相手の価値観と自分の価値観の違いを認め、自分の価値観を押し付けない事。相手の価値観を否定しない事。つまり、思いやりの心が大切だと思えます。相手の身になって考えるという基本に返った取り組みが必要だと思えます。

※「保護者として取り組めること」のご意見・学校からの説明等は次回の学校便りで紹介します。

池谷生活部長さん



指導の三浦指導主事



教育講演会の様子



本校教職員



「いじめ」の重大化は、被害者も加害者も、他の生徒も、保護者も、教職員も、行政も、地域も、みんな辛い思いをします。危機管理上、「いじめは起こらない」と思えば何もしなくて良いのです。いじめの定義を正しく理解し、本気で取り組むのは「被害者も加害者も守りたい」からです。

